

研修報告書 No22

研修施設： 本山町立国保嶺北中央病院
大川町立国保小松診療所
高知市土佐山へき地診療所

私は、本山町立国民健康保険 嶺北中央病院で1ヶ月間研修させていただきました。

病院は山に囲まれ、近くには川が流れており、自然に恵まれた美しい地域にありました。患者さんやスタッフの方の人柄もよく、気持ちよく過ごさせていただきました。

本山町は65歳以上の人口が全人口の38%を占めており、来院患者は9割5分高齢者でした。入院適応は大学病院と大きく異なり、精査加療目的というよりは年齢や気候による外来通院困難や、介護困難による入院も多くみられました。地域では健康に関するセミナーを送迎付きで行ったり、訪問診療が毎日のように行われていたり、高齢化が進んだ地域ならではの工夫が感じられました。

主な研修内容は病棟業務と訪問診療・外来見学です。その他、週1回の当直・抄読会・症例カンファレンスも予定されています。病棟業務は1人の先生に付き、担当医として一緒に患者を受け持たせて頂きました。

科としては内科・外科・整形外科は毎日常勤医師による入院および外来診療が、その他、皮膚科・婦人科・泌尿器科・脳神経外科は外勤医師にて週1回外来診療が行われており、内科以外の外来は見学させていただきました。大学病院の研修では病棟業務が中心だったので、外来を見せて頂くことで高齢者の common disease を数多く経験する事ができ、大変参考になりました。

特色としては、放射線科医、循環器科医等が居ない為、画像や心電図等を撮ったら基本的にその場では自分達で判断しなければなりません。しかしその後火曜日のカンファレンスで、病院で行われた全ての検査1週間分を全員で確認します。自分の症例も含めて全ての検査を見るので、膨大な症例を見ることができ、先生方の意見を聞きつつどこまでは経過観察していいのか、という線引きを感覚的に学ぶ事ができました。

また訪問診療では、無医地区の診療所や各家庭に出向き、一通り診察、処方、時には血液検査等を行いました。私達の実際の役目は主には見学でしたが、無医地区や通院困難な方の診療の実態を知ることが出来ました。病院ではどうしても検査に頼りがちな診療になりますが、訪問診療では聴診器と血圧計、パルスオキシメータのみを持ち、目の前にいる患者さんを診なければなりません。いかに身体診察が重要であるか、そして検査に頼り切った自分の無力さを痛感しました。

抄読会では NEJM の症例報告を発表者が和訳資料を配付し、それを読みつつ全員で診断を考え、順番に自分の考えを発表していきます。研修期間中1回は症例を割り当てられ、発表者

となります。討論の中で様々な先生方の考え方の道筋を聞くことができ、大変勉強になりました。話し合いは夜 11 時に及ぶ事も珍しく無く、とても意識の高い病院と感じました。

内科外来見学が無く病棟業務中心であったこと、当直ではあまり急患が来なかったことは残念でしたが、大学病院のみの研修ではわからなかった事を知り、今後の自分の医療に対する姿勢を考え直すきっかけとなる研修でした。本当にありがとうございました。